

## 社会全体で Make をする。Maker Faire Taiei 2015 レポート

メイカーになろう、今から、ここから！台湾のメイカームーブメントが急加速中

### 高須正和のアジアンハッカー列伝

はじめて台湾のメイカーフェアに参加したのは 2013 年、もう 3 年前になる。そのときのレポートは[ここ](#)にまとまっているが、とにかく雰囲気がよかったのが印象的だった。

日本の DIY ムーブメントは、無線・電子工作のディープなオタクカルチャーにその源流があると思う。アメリカの Maker ムーブメントは、もともとヒッピーやバーニングマンの「自分たちで必要なものを全部作る」、いわば社会から外れたもう一つの場所を作る意図があった。

台湾のムーブメントはどちらとも違う。台湾の人に言わせると、「僕たちは、自分たちの手で立派なものを作り上げることにプライドがある」という。孔子の文化が残る国ではどこも、よく勉強することと働くことが尊重されるけど、きちんと働き、形に残るものを作ることが尊ぶ価値観が台湾は強いそうだ。

台湾のメイカーフェアは、そういうカルチャーが感じさせられる、Make がその国の文化の中心にあることを感じさせるフェアだった。



キャプション：写真が笑顔ばかりなのが印象に残る

それから続けて参加した 2015 年、台湾のメイカーフェアは何倍にも成長し、アジアを代表するフェアとなっていた。日本で言うと、メディア芸術祭と TEDxTokyo とニコニコ超会議とデザインフェスタとメイカーフェアが同時に開催されているような、「自分たちのク

リエイティブを全部集めた」ようなものである。  
大量の写真といっしょに紹介する。

■オレの人生を見ろ！

去年訪れたとき、印象に残っていた鉄工所のオヤジがいる。いかにも Maker らしい会心の  
笑い顔で、自分が作った破砕機を見せてくれた。  
今年も同じオヤジがいた。破砕機は、カッコいいケースをまとめて、「製品」になっていた。



キャプション：自分の製品を売るために、会社を作ったんだよ！

2013 年には、雰囲気はいいものの、ブースは手芸と教育のばかりが目立った台北のフェア  
は、何人かの Maker がスタートアップとして本気で食べていく姿が目立つようになってき  
た。

台湾は独自のクラウドファンディング「フライング v」を持っているが、それに加えて  
Kickstarter や IndyGogo で話題になったプロジェクトも多い。歩いていて、「あ！これ見  
たことある！」と思える製品が置いてあって、作った人がプレゼンしているのはテンショ  
ンが上がる。





キャプション：日本でも話題のバランスホイーラー、ナインボット。台湾のクラウドファンディング「フライングv」から出てきたプロダクト。



キャプション：デルタ型の 3D プリンタ FLUX。レーザーカッターや 3D スキャナとしても使うことができるオールインワン 3D プリンタとして話題になり、Kickstarter で 2 億円近い \$1,641,075 を集め、量産目指して試作中の話題のプロジェクト。





キャプション：メイカーになろう、今から、ここから！

■より広く、高レベル化が目立つ

今回のスケールは、大学やメイカースペースなどの 1 グループで大量の出展物を出す出展者が増え、去年からの出展者も場所を拡大したため、全体では去年の倍ぐらいになっている。一年で倍ぐらいになると、流れに乗って出展してきた薄い出展者が入ってきて、レベルが低下したり熱気が薄れたりするものだが、台北ではむしろより濃くなり、高レベル化している印象があった。



キャプション：ロボットホッケー

これはエアホッケーをやっている様子をカメラで撮影して、リアルタイムでパッドを動かしてロボットが打ち返すロボットホッケー。ハイスピードカメラを使っているのか、反応がとても早くてかなり強い。ロボットをあるていどきっちりやらないと作れないレベルだと感じた。



キャプション：衣服が膨らむ服

これは建築・服飾などを総合的に教えている大学の、ロボティクスファッションコースのゼミ。ゼミ生がそれぞれ作ったロボティクススーツを展示している。









キャプション：これは全身にサーボを仕込んだアイアンマン型のパワードスーツ。学生の出展だけど、かなり工数をかけているのは間違いない



キャプション：水中ロボット  
水中ロボットも展示されていた。





キャプション：工作機械で積み上げて作ったというアート。アルゴリズム的な図形をホントに機械で積み上げるのは面白い。

今年は野外展示も多く、デザインフェスタで見られるようなアルゴリズム的な彫刻と建築物の間のような展示が置かれていた。

ここで取り上げたのは、どれも僕の記憶では去年のフェアにはなかったものである。2年連続でメイカーフェアを見に来ると、半分以上の出展物は同じものが出ていることがある。大規模なもの・作るのが難しいものは時間がかかる。ハードウェアの割合が多いもの、研究テーマが長期的なものは、ゆっくりと時間をかけて進化していくものだ。ただ、台北のフェアでは新作でしかもレベルの高いモノが集まっているのが見られた。これは、ムーブメントが大きくなり、国全体を巻き込んでいることを示していると思う。

#### ■TEDxのようなトークイベント FUSIONERA

メイカーフェア台北は、多くのオーガナイザーが協力して実現されている。全体というか、イベントの冠をつけているのは、**Make:magazine** の台湾版の権利を取得して販売している出版社だ。他にロボコンマガジンの台湾版など、広く技術書を出版している。

協力してオーガナイズしているグループの一つが **MakerBar Taipei** で、これは **Bar** という名前だけど実際はテックショップ(月額制や時間制で工作機械を借りられる場所)の運営をしながら、**TEDxTaipei** の運営もやっている人たちだ。**TEDx** をやるぐらいだから海外やアート系にもつながりが強く、今回は 2 日間 **FUSIONERA** というイベントを開催した。世界中から集められたスピーカーたちが、15 分ぐらいで **Make** に絡んだ元気の出る話をするイベントだ。**TEDx** は、アイデアをシェアするとよく言われるけど、「面白くて他人

に広めたいくなるような元気が出る話を聞く場所」と言う方が、実感に近い気がする。



キャプション：FUSIONERA のエントランス





キャプション：FUSIONERA に登壇する、MAKE:magazine の Anne。装飾とか内装の欧米っぽいオシャレ感も TEDx っぽい。

2 日にわたって、台湾・中国本土・欧米・日本などから 20 名近いスピーカーが集まり、トークを行った。話題は、自分のプロジェクトの紹介、Make 系の最新事情など、Make に関係していて聴いていて気分がよくなるような話ならなんでもいい。僕も、台湾でのチームラボの作品 Circulum Formosa や 未来の遊園地などをテーマに登壇した。僕の前は MAKE:magazine の Anne で、彼女が手がけている Fab Academy の話をしていった。直前は nabi という韓国のアートセンタの Soh がメディアアートの事例紹介。



キャプション：最後に初日午後のスピーカーたちと一緒に写真を撮った。僕は初日のトリ。

この時期、台湾では **Fablab Asia Network** のカンファレンスも行われていて、**Makerbar Taipei** はそちらもサポートしている。**FUSIONERA** の会議場は 2F で行われていたのだが、1F はまるまる Fablab やスピーカーの人のためのブースになっていた。





キャプション：Fablab 上海からの出展者

■ニコニコ技術部、台北に現る！

台湾は、距離的に近いせいか、日本のカルチャーの伝播が早いし強い。

台湾科技大のロボットサークルは、なぜかニコニコ動画とニコニコ技術部が大流行した時期があり、他の国ではまずみない、ニコニコ技術部的なコンテンツが台湾のフェアには出されている。

一番ハマって、毎回ニコニコ技術部に影響された作品を作っていた台湾の wu\_sai は、ついに 2015 年 4 月のニコニコ超会議、ニコニコ学会βブースにて作品を展示するに至った。



キャプション：Wu\_sai。遊戯王のデュエルディスクに、立体投影を組みあせた作品。

3 年前からやりとりしていて、日本のイベント登録について教えたり、僕の資料を中国語に訳してもらったり、交流は続いている。

それに答える意味もあり、今回日本のニコニコ技術部で声がけをして、10 人近いグループがそれぞれの作品を持って、NT 台北（ニコニコ技術部では、NT のあとに地名をつけてイベントをするのが慣例になっている）としてメイカーフェア台北に乗り込んだ。





キャプション：Nico-TECH:として英文のバナーも作成



キャプション：一番人気だった、コアラのマーチを振る機械。コアラのマーチは台湾のコンビニでも大人気





キャプション：コスプレ、男の娘、あの楽器など、「台湾よ、これが日本だ」と言わんばかりのラインナップ

コアラのマーチを振って砕いて玉にする機械や、初音ミクの「あの楽器」と男の娘、コスプレ、FPGA など、ニコニコ技術部らしい展示は台北の人たちにも喜ばれたようだ。

もちろん、wu\_sai の友達たちも作品を展示している。





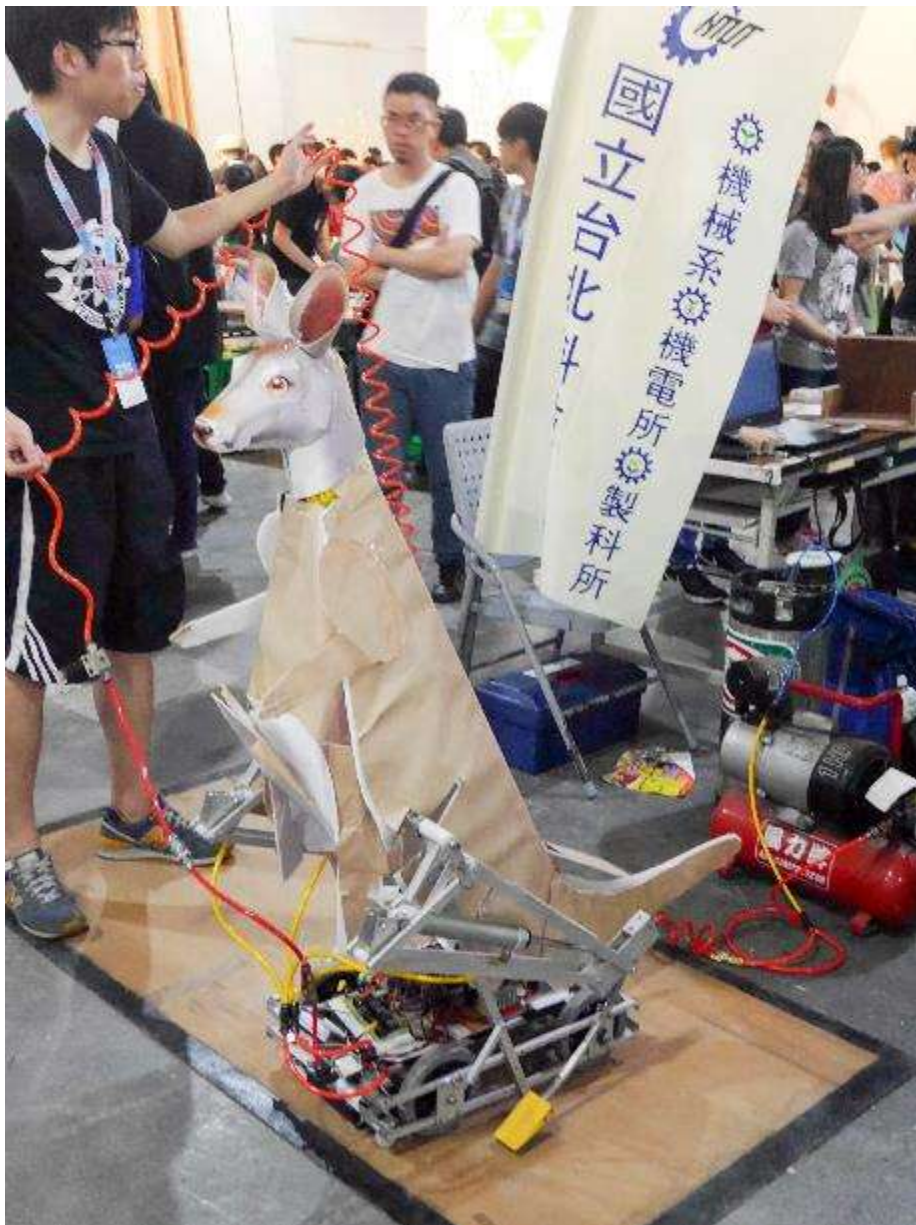
キャプション：台湾の人が作った「ミクさんに武器を持たせる」



キャプション：等身大の初音ミクロボットも開発中

僕らニコニコ技術部のブースの周りは、wu\_sai の出身サークル、台北科技大機器人部だったのだが、wu\_sai が卒業した後もニコニコ技術部の感性が感じられる、技術的に高度ながらファニーな作品を作っている。





キャプション：カンガルーロボ。エアコンプレッサーでジャンプする

このダンボール外装ながら、人間に近いサイズでジャンプするのカンガルーロボの動きやは日本からのニコニコ技術部の魂をがっちりつかんでいた。  
 僕らは間違いなく、もっと大人数で来年台北に訪れるだろう。  
 今回の出展の様子はこのまとめにまとめられている。

wu\_sai は今年 8 月 1-2 日で行われる、メイカーフェア東京にも出展が認められたそうだ。  
 ぜひブースを訪れてもらいたい。

■何でも作っている、これがメイカーフェア  
 まるでニコニコ超会議ばりに様々なクラスタが出展しているため、全部は紹介しきれない

が、「その場で作っている」人たちのブースはより「メイカーフェア」感が高まるように思う。



キャプション：このブースではがりがり木工中





キャプション：こちらではNCが稼働中



キャプション：今回も最大規模のブースを構えていた Pinkoi。Pinkoi は手芸、レザークラフトなどの自作工芸品を直接売るプラットフォームで、台湾で大人気





キャプション：巨大フレネルレンズを使って木の板に焼き印するデモ

■ぜひ日本との交流がすすむといいと思う

ほかにも、丸 1 日を使って行われたヘボコン、ロボコン、「ムダガジェット決定戦」などが「競技スペース」として新設された場所で行われていて、そちらはほとんどチェックで

きなかった。

全体的に感じるのは、僕らが見て共感できる出展物が多いことだ。ムダだけど作りたいから作った工作、細かいところに手をかけた工芸品、アニメやマンガへのオマージュ...ベイエリア・シンセン・シンガポールなどのフェアに比べて、東京のメイカーフェアと通じるような出展物がそれなりにある。Wu-sai のように、東京まで出展しにくるメイカーもいた。日本からの出展も、ニコ技以外にもいくつも見られた。

京都あたりからメイカーフェア東京に出展しにくることを考えると、飛行機代や滞在費含めてむしろ安くつくぐらいで行けくことができる国でもあり、いろんな意味で、日本のメイカーフェアからさらに別の場所に出してみたい人にとってオススメのフェアだと思う。

来年もとても楽しみにしている。

告知です。

[Maker Faire 深圳 2015](#) は 6 月 19 日（金）～21 日（日）に行われます。こちらについては実行委員をやっています。申し込みはもう締め切ってしまいましたが、アジアでもっとも盛り上がってるフェアだと思います。来場お待ちしております。

[Mini MakerFaire シンガポール](#) が、7 月 11 日（土）～12 日（日）に開かれます。こちらでも日本語で申し込みができるようになっていますし、日本から まとめて出展するアレンジ も行っています。

7 月 25 日（土）-26 日（日）東京・秋葉原の DMM.Make AKIBA にて、出展自由の物作り系イベント [NT 東京 2015](#) を行います。また、去年大好評だったギーク向けダンスパーティー「新宿メイカーズクラブ」を 25 土曜日の夜に行います。

こちらもお展・来場おまちしています！